



できる楽しさいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい

令和8年度6月号

早稲田小だより

1年60名 2年43名 3年49名
4年57名 5年71名 6年61名
計 341名

やさしさの力

校長 中西 健二

6月 本校で友達との関わりの中から 悲しい出来事が明らかになりました。

「遊びのつもりだった。」

「みんながやっていた。」

その一言では 傷ついた心は 元には戻りません。

だから今 私たちは改めて考えたいのです。

友達を大切にするとはい ということなのでしょう。

そんな思いで過ごしていたとき 学校の中にある「やさしさ」が いつも以上に心に映る出来事がありました。

毎日 暑い日も雨の日も 子どもたちの登下校を見守ってくださるスクールガードの皆様。

「大変ではありませんか」とお尋ねすると

「子どもたちの挨拶や笑顔から元気をもらっています。」

そう穏やかに話してくださいました。

その姿そのものが 子どもたちへの何よりの教えとなっています。

もう一つ 5年生の新体力テストの日のことです。

測定が長引いた2組のために 1組の子どもたちが 誰に言われるでもなく給食の配膳を済ませてくれていました。

「困っている友達を助きたい。」

その思いは 言葉ではなく行動となって表れていました。

人は 人を傷つけることもできます。

けれど 人を支え 励まし 幸せにすることもできます。

- ・友達にやさしく声をかけること。
- ・困っている人に そっと手を差し伸べること。
- ・相手が嫌がることはしないこと。

そんな小さなやさしさの積み重ねが 安心して過ごせる学校をつくれます。

「自分がされて嫌なことは 人にしない。」

それだけでなく

「自分がしてもらってうれしかったことを人にもする。」

そんなやさしさが 学校中に広がってほしいと願っています。

本校の子どもたちには 相手の痛みに気づき そっと手を差し伸べられる人に育ってほしいと思います。

私は 子どもたち一人一人の中にある「やさしさの力」を信じています。